

この話は、南アメリカの先住民に伝わる、あるハチドリの物語です。

### 「ハチドリの一滴」

森が燃えていました  
森の生きものたちは われ先にと 逃げて いました  
でもクリキンディという名の  
ハチドリだけは いったりきたり  
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは  
火の上に落としていきます  
動物たちがそれを見て  
「そんなことをして いったい何になるんだ」  
とって笑います  
クリキンディはこう答えました  
「私は、私にできることをしているだけ」

短い物語ではありますが、このお話には大きなメッセージが込められています。クリキンディはハチドリという小さな体ながら大きな勇気をもっているように見えます。そして他の動物たちは臆病者で、自分さえよければいいといった当事者意識もないように感じられます。動物たちが火事を消そうともせずに逃げ出してしまったことは当たり前のことに思えます。でも、怖いからそうするのが当たり前と考えて良かったのでしょうか？

今の世の中は、あの燃えている森と同じように見えます。経済、環境・気候変動、原発の再稼働などのエネルギーの問題、戦争、飢餓、貧困、差別、等々。あの燃えていた森はこの世の中を覆っている闇の事かもしれないと、クリキンディは教えてくれているのでしょうか。この世の中は大変な問題でいっぱいです。でももっと大きな問題は、これらの事に対して「自分に問題を解決する力なんて無い」とか「そんな事をして何になるんだろう」と大切な事柄や行いに目をつぶってしまうことです。私たち一人一人はちいさなハチドリの力に過ぎないかもしれませんが、この無力感やあきらめを吹き払い、しっかりと目を開き問題と向き合い、「わたしにできること」について考え、行動し、それらを積み重ねてゆくことができるとしたら燃えている森の「火」を消す力にだってなれるかもしれません。これらの問題に対して、今一人ひとりが傍観者とならずに自分でできることから取り組んでいくことが大切です。たとえどんなに非力で無理だと思っても、とにかく行動することが重要です。

この森の物語には続きがありません。きっと、いろいろな動物たちがそれぞれのできることに気づいて協力して火事を消してくれた... というお話で終わって欲しいものです。

1980-90年代は、技術立国として日本は輝いておりました。

しかし、現在の日本は「何もしない日本」「更新途上国」と揶揄されています。

マッハコーポレーションは、ちっぽけな会社ですが「ハチドリの一滴」の精神で、技術立国日本の復活を夢見て世界に羽ばたいてまいります。

マッハコーポレーション株式会社

代表取締役社長 赤塚剛文

参考

リンク先

<https://neoether.jp/hachidori/>

<http://www.tmss.jp/medicaltreatment/img/hachidori.pdf>